



**マダニ等が媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群」に注意しましょう！**  
**～県内で初めて「重症熱性血小板減少症候群」の患者が発生しました～**

## 1 要旨

令和3年3月5日、静岡県中部保健所管内の医療機関から「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生届」が提出されました。SFTSが平成25年3月4日に感染症法で全数把握対象疾病である4類感染症に指定された以降、静岡県では初めての発生です。患者は、県中部地域在住の60歳代の男性で、現在入院加療中です。

SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、予防策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。また、マダニに咬まれてSFTSウイルスに感染しているネコやイヌの体液から感染することもありますので、普段からペットがマダニに咬まれてないようにし、もしペットが体調不良になった場合は咬まれたりなめられたりしないようにして動物病院で診てもらいましょう。

報道機関各位におかれましては、感染症の精神に基づき、感染者及び感染者家族等について、本人等が特定されることのないよう、人権に格別の御配慮をお願いいたします。

## 2 患者について

### (1) 概要

県中部地域在住の60歳代男性が2月28日に38℃発熱し、近医を受診していましたが、3月4日になっても解熱しなかったため、5日、中部保健所管内の医療機関を受診、ダニが媒介する感染症を疑い、検査を受けました。血液を検体として県環境衛生科学研究所で検査を行ったところ、5日に重症熱性血小板減少症候群の病原体ウイルスが検出され、重症熱性血小板減少症候群であることが確認されました。

### (2) 主な症状

発熱、筋肉痛、下痢

### (3) 患者確認に至った経緯など

2月28日～ 発熱  
3月2日 医療機関Aを受診（発熱）  
3月3日 医療機関Aを受診（発熱、筋肉痛、下痢）  
3月4日 医療機関Aを受診（発熱、筋肉痛、下痢）  
3月5日 医療機関Aから医療機関Bに照会され受診、医療機関Bに入院  
静岡県環境衛生科学研究所でSFTSの遺伝子検査（PCR）陽性確認

### (4) 推定感染経路

患者は、屋外での作業に従事することなく、診察においてもダニの刺し口は確認されませんでした。職業上動物に接触することが多く、平成29年にネコから咬まれて感染した事例が報告されていることから、動物との接触を介して感染したと推定されます。

## 3 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

（厚生労働所ホームページ「重症熱性血小板減少症候群に関するQ&A」から一部抜粋）

SFTS（severe fever with thrombocytopenia syndrome）は平成23年に初めて中国で報告されたウイルスによるダニ媒介性感染症です。

国内では、平成25年1月に海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以降、60歳以上を中心に毎年60～100人程度の患者が全国で報告されています。

### (1) 感染経路

- ウイルスを有するマダニに咬まれることにより感染します。多くの場合、マダニに咬まれてSFTSウイルスに感染すると考えられますが、マダニに咬まれた痕が見当たらない患者もいます。
- 最近の研究では、SFTSウイルスに感染し、発症している野生動物やネコ・イヌなどの動物の血液からSFTSウイルスが検出されています。特にSFTSウイルスに感染し、発熱、消化器症状（食欲不振等）を呈しているネコやイヌに咬まれたり、血液などの体液に直接接触したりすることで、SFTSウイルスに感染する可能性は否定できないと考えられています。
- 患者血液や分泌物との直接接触が原因と考えられるヒト-ヒト感染の事例も報告されています。飛沫感染や空気感染の報告はありません。

### (2) 潜伏期間・症状

潜伏期間は、ダニに咬まれてから6～14日とされています。  
発熱、消化器症状（食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現

します。時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸不全症状、出血症状（歯肉出血、紫斑、下血）が出現します。有効な抗ウイルス薬等による特異的な治療法はなく、対象療法が主体です。国立感染症研究所の最新の研究によると、致死率は約30%。

#### 4 注意喚起

- (1) マダニに咬まれないようにしましょう！  
特にマダニの活動が盛んな、春から秋にかけて注意が必要です。野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。
- (2) 屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！  
マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。
- (3) 野生動物などの接触にも注意しましょう。  
野生動物は、どのような病原体を保有しているか分かりません。野生動物との接触は避けてください。また、動物の死体等に接触することは控えましょう。動物由来感染症に対する予防の観点からも、動物（ネコやイヌ）を外でも飼育している場合、口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝たりすることなどは控えてください。また、動物に触ったら必ず手を洗いましょう。  
また、動物に付着したマダニは適切に駆除しましょう。飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診して下さい。

#### 5 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者数（国立感染症研究所ホームページから抜粋）

図2. SFTS症例の届出地域（n=573, 2020年12月30日現在）

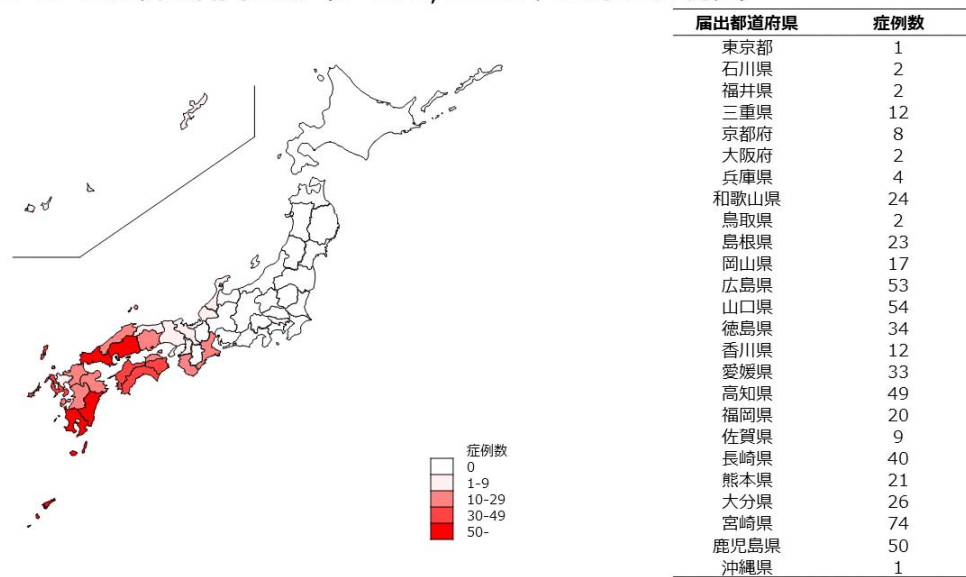
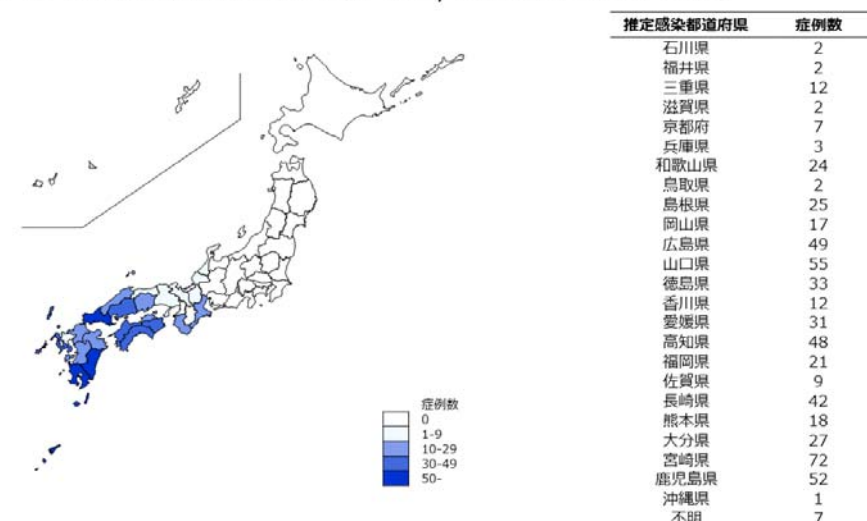


図3. SFTS症例の推定感染地域（n=573, 2020年12月30日現在）



令和3年2月28日時点では、以下の自治体からの届出は、5件（高知県(2)、島根県(1)、長崎県(1)、宮崎県(1)）